

令和4年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

学校経営方針 (スクールミッション)	未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEMプログラムの推進 ○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力しあう豊かな人間性と、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校			評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。				
	本年度の重点目標	資質・能力の育成 「STEMによるものの見方の習得や批判的思考力の育成」「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 豊かな人間関係の醸成 「ART(感性・芸術・美意識)の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自走する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」 命の教育の推進 「生命・人権尊重」「自他肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」			評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する			
学校の重点目標	各課の重点目標	評価指標(手段・ゴールイメージ)	具体的な対策	学年末 成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)		学校関係者評価及び意見		
				評価		評価	コメント	
総務部 教務課	1 資質能力の育成	(1) 生徒の学力と関心意欲の向上 (2) 校務の整理とICT(校務支援システム、ミライム等)の有効活用	(1) ①学習特別指導対象者の減少 ②NFC評価の数値向上 (2) ①資料の電子化、ペーパーレス化を推進する。 ②データの整理・共有により、業務の効率化を図る。 ③早期着手により時間的余裕をもち、ミス等がないようチェック機能を高める。	(1) ①シラバスを活用した学習の構えづくりと意欲を喚起する指導の実践 ②基礎学力の定着と応用力の深化のための授業の工夫と課題の精選 ③バラスのとれた授業時数の確保 ④観点別評価を有効活用し、学習のPDCAサイクルを強化する。 (2) ①会議資料等を電子化し、一人一台端末で全職員が共有する方向へと移行していく。 ②出欠統計や成績処理等を正確に行うための入力 of 徹底と校務支援システムの運用(図書情報課との連携) ③指導要録等、3年間を見据えた校務処理の在り方の検討と実践(進路指導課との連携)	3	(1) ○①学習特別指導対象者数は横ばいのままであるが、学習特別指導を含む事前指導や常時指導の一定の成果は現れているように感じる。 ●②各行事の目的や身につけさせたいNFCを明確に生徒へ提示し、もっと意識をもたせる必要がある。 (2) ○①職員の一人一台タブレットがほぼ実現され、校内ネットワーク、ミライム、Google Classroomなどツールが充実するとともに資料の電子化、ペーパーレス化は進んできている。 ○②会議等のスリム化(例、運営委員会、教科代表者会は隔週開催)を図り、職員が教材研究や生徒と向き合う時間を生み出せるように努めた。 ●③成績処理スケジュールを明確に示し、計画的な評価および処理を呼び掛けてきた。しかし、残念ながら、ミス等が完全にはなくなっていない。	3.0	・ICT機器の活用については、生徒はスムーズに馴染むと思うので、道具として利用しつつ、その道具に支配されないリテラシーを高めてほしいです。 ・働き方改革にも配慮しながらICTの活用や生徒の学力向上に努めてほしい。
	2 豊かな人間性の醸成	(1) 進路実現の視点に立ったカリキュラムの効果的運用と検証 (2) 学校行事の検討と円滑な運営	(3) ①令和5年度入学生教育課程表完成 ②進路実績向上へとつなげる。 (4) ①行事等の計画立案および周知徹底の流れ(各分掌→運営委員会→職員会議・職員全体)をスムーズにする。 ②参加者が行事の意義・目的等を認識して参加できるようにすることにより、NFCの醸成、生徒の自走へとつなげていく。	(1) ①カリキュラムの運用の充実と検証 ②進路実現のために効果的かつ効率的な学級編成・授業クラス編成の検討・導入 ③教育課程説明会の実施によるカリキュラムの周知徹底と教育課程登録の的確な指導 ④新学習指導要領における学習評価の的確な運用 (2) ①月行事予定の早期の検討・作成と配付 ②他の分掌との連携・協力による学校行事の運営	3	(1) ○①令和4年度入学生教育課程単位数表に基づき、令和5年度入学生教育課程単位数表を作成した。 ○②新学習指導要領の特徴である一人一台端末(ICT活用)や観点別評価、探究的学習等の特性を教科指導に生かしながら、引き続き、生徒の学力向上につなげていく。 (2) ○①新型コロナウイルス感染症の拡大等により、突発的な変更を余儀なくされたものも一部あったが、各分掌の協力により、行事等の計画・立案および職員・生徒への周知徹底の流れは比較的スムーズであった。 ●②参加者が行事の意義・目的等を認識して参加できるようにすることにより、NFCの醸成、生徒の自走へとつなげていけるようさらなる工夫が必要である。	3.0	・特になし
総務部 広報課	2 豊かな人間性の醸成	(1) 広報委員会の活動の充実 (2) オープンスクール、学校説明会等の充実	(1) ①年間を通した委員会活動のノウハウの確立 生徒の目線を生かしたPR資料の作成 (2) ①実行委員を主体としたオープンスクールの企画・運営 運営に関わった生徒の満足度が向上する。	(1) ①担当職員と生徒の綿密な連携 (2) ①運営を生徒主体にすることで、運営に関わる生徒が多様性を尊重し、感性や創造力を伸ばし、西高プライドを醸成する場面とする。	3	(1) ①○2回の高校オープンスクールの企画運営を行った。第1回は2年生、第2回は1年生が主として取り組んだ。また、学校紹介動画の作成に取り組み、オープンスクールや各種説明会で活用することができた。YouTubeチャンネル向けの動画作成やInstagramアカウント取得に向けての条件整備などに取り組んだ。 ●①日常の部活動や行事等の写真や動画の収集に取り組ませたい。 (2) ①○関わった生徒が主体的に、自信を持って本校をPRできたことが、参加した児童・生徒・保護者の事後アンケートからうかがえた。	3.8	・時代に合わせたネットでの配信は良い。 ・ZOOM等を活用し、直接来れない生徒も参加できるとオープンスクールを作り上げてほしい。 ・動画編集など、今の世代が得意なことは生徒に委ねることが一番良いと思います。徐々に体制が確立されて成果につながっています。 ・生徒が主体的に取り組む試みについては、今後も進めてほしい。
	3 命の教育の推進	(1) オープンスクール、学校説明会等の充実 (2) 本校の魅力の発信	(1) ①参加した児童・生徒・保護者の満足度が向上する。 ②普通科の高校入試倍率1.06倍。 (2) ①業者を活用し、魅力あふれる資料を作成できたか。 ②鮮度の高い情報、安全・安心な学校生活のイメージを発信できたか。 ③本校の実績を発信するとともに、受験生の動向やニーズをリサーチできたか。	(1) ①生徒主体の運営を見せることで、生き生きとした本校生徒の姿を発信する。 (2) ①学校紹介資料(パンフレット、ポスター、広報誌など)の作成 ②ホームページ、Facebook、YouTubeによる最新情報発信 ③小学校・中学校・学習塾との連携	3	(1) ①○中学・高校とともに、児童、生徒、保護者の事後アンケート結果は大変好評であった。 ②◎1.09倍に達し、目標クリア。 (2) ①○横断幕・懸垂幕の設置に取り組んだ。(6月：高校総体を中心に。9月：上位大会や1年生大会を中心に。2月高文祭や新人大会を中心に) ○パンフレットや広報誌など、生徒の生の声を反映させて作成することができた。 ②○行事の様子や大会の結果報告など、タイムリーにHPに掲載することができた。 ●「学校生活」のページの充実を図りたい。 ③○塾対象説明会・中学対象説明会を実施した。高校説明会の15分では伝えきれない本校の良さを伝えることができた。	4.0	・オープンスクールの評判は非常に良く、志願倍率アップにもつながっている要因だと考えます。 ・重点目標の「命の教育の推進」との関係性がよくわからない。

令和4年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

<p>学校経営方針 (スカラー・マネジメント)</p>	<p>未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEMプログラムの推進 ○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力しあう豊かな人間性と、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校</p>			<p>評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。</p>	
<p>本年度の重点目標</p>	<p>資質・能力の育成 豊かな人間関係の醸成 命の教育の推進</p>	<p>STEMによるもの見方の習得や批判的思考力の育成」「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 「ART(感性・芸術・美意識)の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自走する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」 「生命・人権尊重」「自己肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」</p>	<p>評価段階 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する</p>		
	<p>学校の重点目標</p>	<p>各課の重点目標</p>	<p>評価指標(手段・ゴールイメージ)</p>	<p>学年末 成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)</p>	<p>学校関係者評価及び意見</p>
				<p>評価</p>	<p>コメント</p>
<p>1 資質能力の育成 Revolution ～西校プライドと自治の醸成～</p>	<p>(1)生徒会や委員会活動を通じて、主体性や自己管理能力を高める。 (2)校則や容儀指導等のあり方を検討し、生徒の自己管理能力を育成する。</p>	<p>(1)(2) ①生徒総会や委員会活動で生徒が主体的に議論し、多様な考えを理解した上で、集団としての考えを形成しようとしている。 ②携帯・スマホ持ち込み規定違反者数の減少</p>	<p>(1) ①学校のあり方について生徒会等で議論し、生徒の自治意識を高める。 ②スマホの自己管理能力を醸成する。 (2) ①新校則運用の実際について生徒にも議論させ、西高プライドを醸成する。 ②容儀指導を徹底できる体制を作る。 ③新しい時代に対応した制服の改訂を検討する。(50周年記念事業との連携)</p>	<p>(1)①② (2)② △全体的に生徒の自治意識は高まっているように感じる。しかし、一部の生徒において頭髪やスマホ使用における自己管理ができていない状況である。今後も引き続き各種委員会や生徒会等で自治意識の高揚に努めていく必要がある。 (2) ③○R5新入学生からの新制服が決定した。これまでアンケート調査や検討でご協力いただいた全ての生徒と保護者、同窓会の皆様へ感謝したい。</p>	<p>2.4 ・警察の方が言われるように、本校の規模で問題行動をゼロにするのは難しいのではないかと。 ・問題行動が0でなかったから評価を低くするというのでは、具体的な対策に対する評価につながっていない。 ・生徒の自己管理能力を育成するのは難しいと思いますが、引き続き粘り強く指導をお願いします。</p>
<p>生徒支援部 生徒指導課</p> <p>2 豊かな人間性の醸成</p>	<p>(1)感性や創造力を伸ばす学校行事や特別活動を推進する。 (2)部活動やボランティア活動等を推進する。</p>	<p>(1) ①生徒の学校満足度評価結果の向上 (2) ①部活動加入率の増加と積極的なボランティア活動参加者数の増加</p>	<p>(1) ①朝陽祭をはじめとする各種学校行事のあり方の検討する。 (2) ①6年間を見据えた学校行事および部活動の中・高連携を実践する。 ②部顧問の適正配置と部活動指導員等の積極的導入を行い負担軽減のための様々な制度を検討する。</p>	<p>(1) ①○コロナ禍による制限の中でも創意工夫して学校行事を無事に企画・運営することができた。次年度は各種制限が緩和されていく中で、どのように元の行事を取り戻していくのか、コロナ禍で様々なメリットをどのように活かしていくか、ハイブリッド型の行事の検討をしなければならない。 (2) ①②○次年度も本校生が大活躍できるよう人的・物的環境整備を整えていきたい。</p>	<p>3.0 ・部活動加入率の増加や実績を上げている部分は素晴らしい。文武両道ではあるが、学習に費やす時間も多すぎない。 ・西高は個人の成績が目立っていたのにこれだけ団体が活躍するのはこれまでにない変化だと思えます。</p>
<p>3 命の教育の推進</p>	<p>(1)生命・人権・多様性を尊重し、自己肯定感を育成する。 (2)道徳教育を推進し、いじめの未然防止を推進する。 (3)交通安全指導を徹底し、マナー意識を向上させる。</p>	<p>(1) ①誰も見ていなくても自分や他者の命を守る行動をとる生徒の増加 (2) ①いじめアンケート結果の改善 (3) ①交通ルール・マナー違反に関する苦情の減少</p>	<p>(1) ①教師自身が、高い生命・人権・多様性尊重の意識を持った言動を徹底し、範を示す。 ②生命尊重に関する様々な講話、講演会等を実施する。 (2) ①LHR等で人権教育を充実させ、教育相談アンケートといじめアンケートの実施内容を改訂し、定期的・継続的に実施する。 (3) ①交通安全に関する様々な指導やPTAと連携した交通指導を実施する。</p>	<p>(2) ①△いじめアンケートおよび教育相談アンケートの結果、年間を通していじめを認知することはなかった。しかし、そのきっかけとなる人間関係のトラブルは頻繁に起きており、その都度、担任を中心としたこまめな面談により早期発見・早期解決へと繋げることができた。今後も引き続き日常の観察と生徒のケアを目指す必要があるが、どうしても担任の負担大になっている現状がある。関係職員で協働していくための理念の再構築と仕組みづくりが必要である。 (3) ①△3学期になり明らかに苦情の電話は減少したが、ゼロにはなっていない。また、自転車による軽度の交通事故も起きており、とにかく粘り強く指導し交通モラルの高揚を図っていくしかない。 R5より自転車運転時のヘルメット着用が努力義務になる。現在どころ本校におけるヘルメットの義務化の準備は全く無いが、今後義務化になるであろうことを見据えて関係機関と連携してその準備をする必要がある。</p>	<p>1.8 ・昔に比べて目に見えない陰湿ないじめや差別が増えているので、スマホの使い方も含めて、啓蒙する時間を作ってほしい。 ・交通マナーに関しては現PTAの方も少しお話しする機会がありました。やはり生徒から親に言わせる流れを作るのが一番いいように思います。生徒会などを巻き込んで啓発活動をするのも有効だと思います。 ・警察署との情報共有を回り、連絡協議会等を通じて啓発活動・指導等を引き続きお願いします。</p>

令和4年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

学校経営方針 (スカラーミッション)	未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEMプログラムの推進 ○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力しあう豊かな人間性と、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校			評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。				
	本年度の重点目標	資質・能力の育成 豊かな人間関係の醸成 命の教育の推進	STEMによるものの見方の習得や批判的思考力の育成」「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 「ART(感性・芸術・美意識)の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自定する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」 「生命・人権尊重」「自己肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」	評価段階 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する				
学校の重点目標	各課の重点目標	評価指標(手段・ゴールイメージ)	具体的な対策	学年末				
				評価	成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)			
				学校関係者評価及び意見				
				評価	コメント			
生徒支援部 教育相談課	1 資質能力の育成	(1) 様々な悩みを抱える生徒一人一人に対して、きめ細かく対応するため、生徒への相談体制を充実させる。	(1) ①相談体制の充実 ②不登校に繋がる諸問題が深刻化する前に早期に発見し対応することで、生徒・保護者のストレスと教職員の負担を軽減する。	(1) ①学年会、教育相談課会、教育相談委員会における生徒の情報共有化	4	(1) ①相談室登校をしてくる生徒や長期欠席までには至らない生徒、教育相談委員会に不登校気味として挙げられた生徒に対しては、担任や学年主任と連携し、家庭訪問や二者面談、担任を交えた三者面談に同席したりと積極的な関わりができた。 ●3月1日現在で転学者が9名となった。ひと月以上の長期欠席が続く生徒に対し、容易に転学しないような関わり方や対応に努めたい。	2.3	・教師間の情報共有、定期的な教育相談の回数を増やすなど、数を減らすように努めてほしい。 ・コロナ禍なので不登校などの問題は全国的な増加の中、西高は抑えられているのではないかと感じました。 ・転学の理由の分析をしてほしい。
	2 豊かな人間性の醸成	(1) ネットや携帯電話の普及等による人との関わり合いの不足やコミュニケーションの不足から生じる影響の軽減を図る。	(1) ①生徒一人一人のコミュニケーションスキルの向上 ②専門機関との連携の強化	(1) ①LHRの中でライフスキルの授業を年2回実施し、話し方や聴き方等のコミュニケーションスキルの向上に努める。 ②スクールカウンセラーや特別支援エリアコーディネーター等の外部の専門機関の職員と連携し、生徒の心のケア、教職員・保護者等への助言・援助等を行う。	4	(1) ①生徒間でコミュニケーションに関わるトラブルが増加傾向にあることから、日常生活の中でコミュニケーションスキル向上のためのピアサポートトレーニング研修を受け、実際に1学年のLHRで取り組んだ。次年度に繋げていきたい。 ②スクールカウンセラーや外部機関の職員と連携を密に取った。	2.3	・コロナ禍の影響で全国的な課題ではないだろうか。 ・西高だけの問題ではないと思うが、コミュニケーションスキルの育成を今後も続けてほしい。
	3 命の教育の推進	(1) 生命・人権・多様性を尊重し、自己肯定感を育成する。 (2) 不登校に繋がるいじめの未然防止に努める。 (3) 支援が必要な生徒への理解を深め、通級指導を実施する。	(1) ①教師自身が、高い生命・人権・多様性尊重の意識を持った言動で、範を示す。 (2) ①生徒へ定期的なアンケートを実施し、いじめの未然防止に努める。 (3) ①支援が必要な生徒の理解に関する研修や通級指導を実施する。	(1) ①悩みを持った生徒たちの自己肯定感の醸成を目指す。 (2) ①週1回の教育相談委員会と学期1回の教育相談希望調査を実施し、早期に生徒の情報共有を図り、いじめの未然防止に努める。 (3) ①年1回の職員研修と通級指導として自立活動(ライフスキル)を実施する。	3	(1) ①人権意識やコミュニケーションスキルの向上を目指し、高校1年生のLHRでピアサポートを実施した。次年度以降のピアサポートの授業に繋げたい。 ●生徒の尊い生命が失われることのないように努める。 ①◎毎学期に1回の教育相談希望調査・学校生活アンケートを実施した。主にいじめやSNSトラブル、セクシャルハラスメントについて調査した。今回はいじめやトラブルは見られなかったが、担任や学年団と情報を共有しトラブルの未然防止に努めたい。 (3) ①◎通級指導に関して自立活動(ライフスキル)を実施した。	3.0	・これまでと同様に早期の情報共有といじめの未然防止に取り組んでください。
生徒支援部 環境保健課	1 資質能力の育成	(1) 命を守るための自己管理能力、行動力を育てるための保健教育の充実 (2) 安全、防災教育の充実と対策の強化	(1) ①自己管理能力の育成を図るために必要な知識やスキルを習得する。 ②自らの健康状態に関心を持ち感染症対策を確実に行う。 (2) ①危機管理意識を高め、自ら主体的に行動できる。 ②安全点検を実施し使用状況の把握をする。 ③登下校時の緊急避難場所を理解する。	(1) ①いのちを大切に教育(性に関する学習など)、健康講話、薬物乱用防止教室等を実施する。 ②生徒の心身両面のさまざまな訴えに積極的傾聴を行い学校生活を支援する。 ③保健の授業で救急救命・AED使用についての指導を行う。 ④感染状況に応じたコロナウイルス感染症への正確な情報発信を行う。また、適切な予防対策を講じる。 ⑤担任、教育相談課、家庭と連携を図る。 ⑥保健委員会活動の活性化を図り、学校保健活動を推進する。 (2) ①防災学習・避難訓練を実施する。 ②年3回(6月・10月・1月)耕心強化週間で安全点検を実施する。 ③登下校時の緊急避難場所調査を行う。	3	(1) ①◎健康講話は中止したが、性に関する学習はコロナ感染症対策を行いながら先生方の協力のおかげでスムーズに行うことが出来た。 ①◎いのちの教育週間に合わせて、学年の発達段階に応じた講演会の設定や性(いのち)に関する学習を計画した。実施後、内容についての見直しを図り、改善につなげていきたい。 ④◎新型コロナウイルス感染症対策については、感染状況に応じてその都度検討し、職員・生徒保健委員による指導・啓発を行った。 (2) ①◎避難訓練を予告した上で行い、その後リモートを使って災害時における危機管理意識の向上を図った。反省点から次年度に向けて改善を図りたい。 ②◎安全点検を実施し、校内の危険箇所の確認を行った。 ③◎登下校時の緊急避難場所調査を毎年行うことによって、家庭でも災害時の行動について話してもらい、防災に対する意識を向上させることができた。	2.5	・性についての教育は、小・中から続いているもの高校での指導は特に重要である。トラブルが起きる前に授業や講話を通して、正しい知識を広げてほしい。 ・生徒ひとりひとりが生き生きと生活できるよう今後も努力をお願いします。
	2 豊かな人間性の醸成	(1) 無言耕心の徹底と美化意識、衛生意識の向上	(1) ①仲間とともに協力し美化活動を行い公共物を大切にすること。 ②ゴミを拾い、身の回りの整理整頓ができる。 ③自ら進んで耕心を行う。	(1) ①美化委員会活動の活性化を図り、学校内外の美化活動を推進する。 ②耕心オリエンテーションを充実させ、自ら清掃や整理整頓を無言で行う生徒を育成する。 ③耕心強化週間を設定し、職員生徒共に美化意識の向上を図る。	2	(1) ①②③◎耕心関係については、耕心強化週間の設定や美化便りの発行等を通して、全校生徒の美化活動への意識付けを図ったが、ごみの分別やトイレの利用状況などに見られるように完全には徹底できなかった。さらに継続的な啓発と個人の意識の向上が必要であり、美化委員会の生徒の負担を極端に増やすことなく、改善のための手立てを工夫する必要がある。	3.0	・生徒の耕心活動はよくやっているように思います。

令和4年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

<p>学校経営方針 (スカラーミッション)</p>	<p>未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEMプログラムの推進 ○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力しあう豊かな人間性と、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校</p>			<p>評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。</p>	
<p>本年度の重点目標</p>	<p>資質・能力の育成 豊かな人間関係の醸成 命の教育の推進</p>	<p>STEMによるものの見方の習得や批判的思考力の育成」「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 「ART(感性・芸術・美意識)の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自定する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」 「生命・人権尊重」「自他肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」</p>	<p>評価段階 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する</p>		
<p>学校の重点目標</p>	<p>各課の重点目標</p>	<p>評価指標(手段・ゴールイメージ)</p>	<p>具体的な対策</p>	<p>学年末 成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)</p> <p>学校関係者評価及び意見</p>	
<p>評価</p>				<p>評価</p>	<p>コメント</p>
<p>1 資質能力の育成</p>	<p>(1)進路意識の啓発を図り、生徒の能力や希望に応じた進路目標を設定させる。 (2)進路目標の実現に向けて基礎学力の定着に努め、国公立大学進学を保障する学力を習得させる。 (3)より高い進路目標の実現に向けて、各学年と連携して一貫性・継続性のある指導ができる体制・システムを構築する。</p>	<p>(1) ①多様な学びを通じた進路意識の高揚と、生徒の生活状況や学習状況に応じたアドバイスや激励 (2) ①基礎学力の定着と国公立大学に合格できる学力の強化(現役生・既卒生合計国公立大300名合格への挑戦) (3) ①超難関大、難関大、医学部医学科を目指す生徒の増加と指導態勢の強化(現役生・既卒生合計東大2けた、九大50名合格への挑戦)</p>	<p>(1) ①進路講演会、大学等の出張講座等の実施 ②年間5回の生徒面談(担任:3回、教科担任:2回)の実施 (2) ①朝課外や夕課外の計画的な実施 ②「課題テスト」・「西高・西附チャレンジテスト」の実施 ③学力検討会・進路検討会の効果的な運用 (3) ①超難関大、難関大、医学部医学科を目指す生徒の学習指導充実のための学力検討会・進路検討会・教科指導研究会の実施 ②全職員がいち早く生徒の学習現況を把握できるような成績データの作成と共有</p>	<p>(1) ①○第1回道路講演会(高3生)、第2-3回道路講演会(高1,2生)、私立大学説明会(高3生)九大高校訪問事業(希望者)、国境なき医師団【看護師】卒業校講演会(希望者)を実施した。 ②○朝課外時の面談については、学級担任面談3回、教科担任面談2回を実施し、生徒理解に役立てることができた。 (2) ①○朝課外は、コロナ感染症拡大により2学期初めに中止となったが、それ以外は予定通り実施することができた。登校時間の厳守を引き続き徹底していきたい。来年度新たに始まる朝夕課外に向けて準備を進めていきたい。 ②○●第2回西高チャレンジテスト(中3,高3生)の実施が延期となったが、それ以外の課題テストや西高チャレンジテストは当初の予定通り実施できた。テストの実施や成績配付について、ミスのないように行っていきたい。 ③○高校1,2年の学力検討会を実施し、現状について分析・検討し、今後の取り組みについて確認することができた。高校3年も進路検討会、出願校検討会を予定通り実施することができた。 (3) ①○理数科・理文クラスの先生方を中心に実施していただき、志望生徒の成績動向と指導の方向性を確認することができた。 ②○各学年の学力検討会では成績推移の資料を提示し、学年の成績の動向を把握することができた。また、各クラスの生徒の志望状況も含めた詳細な成績資料を提示していただき、生徒の現状を共有することができた。</p>	<p>3.8</p> <p>・進路については、学担や教科担とのやりとりが細かく行われ、熱心に取り組まれている印象です。 ・本当にたくさんの進路情報提供をされていて素晴らしいと思います。講演会の数も増えたのではないのでしょうか。 ・生徒が自分の目標を達成できるよう今後も支援をお願いします。</p>
<p>2 豊かな人間性の醸成</p>	<p>(1)生徒一人ひとりが「未知の我を求めて」主体的に自分の将来を考え、長期的な展望のある進路選択とその実現ができるよう、個々の生徒を支援し、社会に求められる人材を育成する。</p>	<p>(1) ①多様な学びを知り、将来の進路発見と実現につながるような講座の実施 ②校外で行われる体験学習への参加者の増加 ③推薦入試(総合型・学校推薦型)に挑戦する生徒の育成と合格者の増加</p>	<p>(1) ①学部・学科講座やYUME講座の実施 ②校外で行われる講演会やセミナー、看護体験などの諸活動の案内と積極的な参加の奨励 ③資格取得の推進 ④Classiや紙媒体のポートフォリオを活用した推薦入試に対応できる生徒の掌握 ⑤全職員で行う小論文・面接・口頭試問等の指導の充実</p>	<p>(1) ①OYUME講座(7月)や学部学科講座(9月)、私大説明会(10月)は、予定通り全て対面で実施することができた。生徒の進路意識の高揚や学習意欲の向上につながった。学部・学科講座では「きみろん」作成につながる内容だったという生徒のコメントが見られた。 ②●校外で行われるセミナーや講演会、講座の案内をしているが進んで参加する生徒が少なくなってきたと感じる。生徒の進路志向に合わせた参加の声かけも必要である。 ④○●Classiについては、ポートフォリオやストーリーに諸活動の記録を残している。Classiを通して、諸連絡を行うことも増えており、こまめにチェックするように呼びかけていくことが必要である。 ○Classiは保護者にもコミュニケーションツールの一つとして利用していただくようにした。学級通信の配信や連絡に活用していただいている。 ○中学校ではキャリアパスポートを記入する機会を設け、生徒が各々の取り組みに対して適切な振り返りをすることができた。 ⑤○全先生方の協力のもと、推薦入試の小論文・面接・口頭試問の指導を行うことができた。先生方の熱心なご指導に感謝している。</p>	<p>3.0</p> <p>・学力レベルに差があり苦勞することもあるだろうが、どの生徒にも意識付けができるような講演会、講座をもっと増やしてほしい。 ・「参加する生徒が少なくなってきたと感じる」とありましたが、生徒自身が取捨選択できる体制こそが意味があるのでこれで良いと思います。 ・働き方改革と同様、生徒の生活もブラックに感じないよう工夫をお願いします。</p>

令和4年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

<p>学校経営方針 (スクールミッション)</p>	<p>未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEMプログラムの推進 ○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力しあう豊かな人間性と、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校</p>			<p>評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。</p>
<p>本年度の 重点目標</p>	<p>資質・能力の育成 豊かな人間関係の醸成 命の教育の推進</p> <p>「STEMによるもの見方の習得や批判的思考力の育成」「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 「ART(感性・芸術・美意識)の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自走する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」 「生命・人権尊重」「自他肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」</p>			<p>評価段階 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する</p>
<p>進路 支援 部理 教科 理 文 課</p>	<p>学校の重点目標</p>	<p>各課の重点目標</p>	<p>評価指標(手段・ゴールイメージ)</p>	<p>学年末 学校関係者評価及び意見</p>
	<p>評価</p>	<p>成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)</p>	<p>コメント</p>	
	<p>1 資質能力の育成</p>	<p>(1)豊かな感性と高い知的探究心の醸成 (2)高い学力の養成と進路志望の実現</p>	<p>(1) ①各種コンテスト、オリンピック、大学やSSH等のプログラムに複数名入賞する。 ②大学見学・入試研修会へ積極的に参加する。 ③医師体験等の講座へ積極的に参加する。 (2) ①1年次ハイレベル模試で偏差値60以上 ②2年次ハイレベル模試で偏差値60以上 ③進研模試GTZのA2以下解消 ④東大京大の超難関大学への合格 ⑤国公立大学医学部医学科への合格 ⑥通常授業は難関大合格が可能なレベルを維持</p>	<p>(1) ①関係部署と連携し、生徒へのタイムリーな案内と参加を奨励する。 ②面談を積極的・定期的に行い、難関校や医学科への進学意欲を高める。 (2) ①模試毎のデータ分析を行い、迅速な共有とフィードバックを行う。 ②教科指導研修会など指導力向上のための研修を充実させる。 3 ①科学の甲子園県予選優勝し、12年連続12回目の全国大会出場。地学オリンピック予選通過者が出了。宮崎県課題研究発表会に2名が出場する。 ○対面型、オンライン型と形式は大学により分かれたが、昨年度に比べて、多くの生徒が参加することができた。 ②●医師体験プログラムは中止となり、医学部志願者の体験の機会が少なかった。 ○高3理数科理文クラス学習会と駿台予備校の「スーパー東大講座」を3年ぶりに実施できた。超難関志願者の進路意識を高めることができた。 ●研究者等て活躍しているOBとの繋がりを広げる。 (2) ①②○予定していた教科指導研究会はすべて実施できた。教師間で情報が共有でき、生徒への指導に役立てることができた。 ②○理文クラスの学力検討会も2回実施できた。上位者を伸ばす指導方法をさらに研究する。 ●理文クラス生が超難関講座等に積極的に参加するよう継続指導する必要がある。 ○3年ぶりの「スーパー東大講座」が実施でき、上位者への進路意識を高めることができた。 ●保護者との連携が弱くなった。保護者が関わる機会を検討する。</p>
	<p>2 豊かな人間性の醸成</p>	<p>(1)規範意識の醸成と生きる力の育成</p>	<p>(1) ①教師主導でなく、生徒が主体性をもって活動 ②生徒会や学校行事へ積極的に参加 ③熱心や日々の生活で自ら気付き行動</p>	<p>(1) ①生徒が自ら考え、行動できる自立心を育成する。 ②熱心・行事への率先した取り組みを奨励する。 ③部活動、生徒会活動への積極的参加を奨励する。 ④生徒主体の理数科生集会を実施する。 3 (1) ①●核となる生徒の育成は良好。超難関講座も実施し、意識の高い生徒の集団を作ることができた。学習に集中できない生徒の指導に時間をとられることがあった。 ●他者を思いやる行動、自浄作用が働く集団の形成 ②③○生徒会活動に多くの理数科生が立候補。学校行事を牽引した。 ④○理数科生集会、理文クラス生集会では、卒業生を呼ぶことができ、帰属意識を深めることができた。理文クラス生集会では、本校出身の教職員が講師を引き受けてくれた。</p>
<p>3 命の教育の推進</p>	<p>(1)多様性を認め、自他肯定感の高揚</p>	<p>(1) ①全生徒が自分の長所・強みを自信をもって答えられる。 ②個別に寄り添う姿勢で面談を行う。</p>	<p>(1) ①○教科担任、学年団、部顧問との連携により、生徒の長所の発見ができた。 ②○保健室、相談室との連携により、配慮を要する生徒への対応ができた。 ○生徒主体の三者面談を実施。自覚と責任を促す。 ●内進生の学力差の拡大。西進生の学力の低下が課題。 3 (1) ①○教科担任、学年団、部顧問との連携により、生徒の長所の発見ができた。 ②○保健室、相談室との連携により、配慮を要する生徒への対応ができた。 ○生徒主体の三者面談を実施。自覚と責任を促す。 ●内進生の学力差の拡大。西進生の学力の低下が課題。</p>	

令和4年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

<p>学校経営方針 (スカラー・ミッション)</p>	<p>未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEMプログラムの推進 ○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力しあう豊かな人間性と、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校</p>			<p>評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等に元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。</p>
<p>本年度の重点目標</p>	<p>資質・能力の育成 豊かな人間関係の醸成 命の教育の推進</p>	<p>「STEMによるもの見方の習得や批判的思考力の育成」「自主的に学びに向かう力を育成するたきくま・マネジメント」 「ART(感性・芸術・美意識)の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自定する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」 「生命・人権尊重」「自己肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」</p>	<p>評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する</p>	
<p>1 資質能力の育成</p>	<p>各課の重点目標 (1)PTA会員(保護者・職員)が共に研修を深めるための活動の推進</p>	<p>評価指標(手段・ゴールイメージ) (1) ①会員の研修の場を提供し、その企画・運営を支援する。 ②研修の内容を、生徒に還元できるものをめざす。</p>	<p>具体的な対策 (1) ①研修委員会(仮称)の研修内容の設定についての意見交換を行い、興味関心が高いものを選択していく。 ②生徒と話題を共有できるような研修の場を設定するとともに、会員相互が楽しくPTA活動に参加できるよう、研修の運営を支えていく。</p>	<p>学年末 成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)</p> <p>評価 (1) ①全3回の研修会を実施した。 ・第1回目講演会(6月30日(木))：「第一志望合格のための子育てメソッド」・講師：本校第46期生の保護者の方々(3名：西山由紀恵様、佐多ひとみ様、宮崎千代香様)・内容：巣立ちを迎えた子どもと過ごした貴重な日々を振り返って、感じたことや考えた事等を発表していただいた。また、本校理科主任の黒田俊一先生にも講師を依頼し、保護者からの受検に関する質問への回答をしていただいた。 ・第2回講演会(10月3日(月))：「実例で学ぶ若者を招いた消費者トラブル」・講師：堂面敬子様(宮崎県消費生活センター)・内容：携帯電話やスマートフォンを利用する子どもの低年齢化、情報通信サービスの普及などによりおこる未成年の子ども達を巻き込んだ消費者トラブルや、成年年齢引き下げに伴う消費者トラブルを防ぐための対策等について。 ・第3回講演会(11月24日(木))：「子どもたちへ心と身体の栄養を～栄養と睡眠の関係～」・講師：矢野智香子様(特定非営利活動法人食生活応援ベジフル)/スケット理事長(管理栄養士、食育ティーチャー、県内で食育事業を推進)・東郷 順一様(東洋羽毛工業株式会社(睡眠健康指導士、文科省推薦の「土曜学習応援隊」登録)・内容：思春期の子ども達へ、心と身体の健康を保つ栄養と睡眠について。全3回の講演会は、家庭において、親と子どもが話題を共有できる内容となったのではないかと。 ②全3回ともに実施後のアンケートは好評であった。 ●今年度の研修テーマについては、事前に行った研修委員会での協議において決定した「生活と健康」をテーマとした研修の実施を進めたが、来年度は、全国的にも大きな問題となっている①いじめに関する内容②情報機器(携帯端末、インターネット)を使う上での注意点の2つの内容を研修テーマとして実施できるよう早めの調整を行ってきたい。</p>
<p>2 豊かな人間性の醸成</p>	<p>(1)保護者の理解・協力を得られるよう情報を発信し、連携を深めていく (2)50周年記念行事の開催準備の推進</p>	<p>(1)(2) ①学年PTA・中学校部会PTAの運営を支援し、その充実をはかる。 ②PTA広報委員会によるPTA新聞の誌面充実をはかる。 ③同窓会や各部署との連携を図りながら、記念行事開催に向けての各種会議の運営に取り組む。 ④携帯メール通信を活用し、多くの場面で適宜、情報を発信していく。</p>	<p>(1) ①各学年PTA・中学校部会担当職員を窓口として、情報共有を密に行いながら各種行事を運営する。 ②携帯メール通信への登録者数の増加を図るための呼びかけを丁寧に行う。 (2) ①50周年行事に向けてのPTA保護者組織を立ち上げる。</p>	<p>(1) ①0高校は各学年主任、中学校は教頭先生に窓口になっていただき、入試制度説明会・教育課程説明会・共通テスト説明会等の運営を円滑に実施することができた。渉外課からも、中学校、高校(各学年)担当を決定し、学年PTAの円滑な運営をめざし、連絡調整を行った。1・2学期の主な学年PTA・中学校部会は、高校入試役員選出補助(4月10日)、第1回学年委員会・中学校部会(5月11日)、高校3年入試制度説明会(6月4日)、高校3年共通テスト説明会(9月9日)、高校1年教育課程説明会(10月6日)、高校2年教育課程説明会(10月11日)、第2回学年委員会・中学校部会(10月18日)となる。各学年、中学校で担当を分担していただき、駐車場誘導や受付業務を行っていただいた。 ②携帯メール通信「マメール」への登録者数は1,594名(3月13日現在)。登録戸数の調査については、担任・副担任の先生方に随時依頼を行った。また、渉外課担当による確認も随時行っている。未登録の家庭には、学級担任の先生に登録の呼び掛けを行っていただくとともに、緊急時の連絡手段の確保をお願いしている。今後は、登録の問合せについては、マメール担当を窓口として、丁寧に対応していきたい。 (2) ①50周年行事については、副会長(50周年記念行事担当)の川浦さんを中心として、寄附推進活動説明会を実施した(11月2日(水)・9日(水)の2日間)。該当保護者は、研修委員会とYUME講座委員会に説明会への参加募集を依頼しうえて、協力が可能な方々にお越しいただいた。また、学校側の記念誌編集担当職員による、誌面構成計画及び原稿依頼活動においては、現在急ピッチで業務を進めていただいているところである。 ●目標額と期限を考えると、現在の寄附金の集約状況は順調とは言えないため、寄附活動のサポートに力を入れる必要があると考える。実行委員会での決定事項を基に、今後、PTA保護者に向けて正確な情報を提供しつつ、協力を求めていきたい。</p>
<p>3 命の教育の推進</p>	<p>(1)生徒が学校生活全般において安心・安全に過ごすことにつながるPTA活動の推進</p>	<p>(1) ①PTAによる登下校時の交通見守り活動を行い、交通安全に関する意識の高揚に努める。 ②防災・いじめ防止・スマホ・交通安全等、命の教育に関する内容をテーマとした研修の場を設定する。</p>	<p>(1) ①交通見守り活動の意義・時期設定・時間帯留意点等についての意見交換を行い、適切なタイミングと共通理解の下に活動を実施する。 ②命の教育に関する内容を精選し、テーマにふさわしい企画を考え、講師の選出を行う。</p>	<p>(1) ①04月の交通見守り活動は、昨年度中学校1学年(現中学校2年生保護者)・高校1学年(現高校2年生保護者)の保護者の方々に実施していただいた。9月は、中学校3年生保護者の方々に実施していただいた。9月に予定していた高校3年生の交通見守り活動は、コロナ禍のため中止となった。朝の生徒の自転車マナーと保護者の車両による送迎の様子を確認していただいた。渉外課の各担当職員が中心となって、実施時期の調整と保護者に必要な道具の準備を行い、円滑な運営がてきるよう補助を行った。今後は、事故が多発している現状において、PTAとして保護者に向けて交通安全に関する呼びかけを、マメールや文書で行っていただきたい。11月14日(月)宮崎南警察署の交通安全担当の職員との本校生徒の交通マナーに関する情報交換会に、本校保護者代表としてPTAより4名の保護者の方々(田迫会長・鹿嶋副会長・押川副会長・大野中学校部会長)に出席していただいた。 ②●研修委員会において、①いじめへの対応について②情報機器(携帯端末、インターネット)を使う上での注意点③生活と健康をテーマとした研修の場の設定をめざしたが、調整の結果、今年度は、「生活と健康」をテーマとした講話の実施が決定となった。来年度に向けて、上記①と②の実施に向けて早めの調整を行ってきたい。</p>

・2年間行事がなく前例を知る人が少なくなる中、よくがんばっておられました。PTAの行事は一度やらなくなるとやり方が分らなくなるといふ状態になるので、こうあらねばならないに囚われずに自由にやりたいことをやっていた雰囲気が大切だと思います。

・50周年行事を期待しています。新制服の変更と合わせて学校外にもぜひ広めていってください。
 ・50周年記念行事をきっかけに西校のよさのアピールや保護者・卒業生との連携を進めてください。

・以前に比べると、(西高生の)スマホをいじりながらの歩行者や自転車が減ってきていると感じる。マナーやルールの規範意識が高まっている。
 ・交通見守り活動に積極的に取り組んでいただき、ご苦労様です。今後も啓発活動・指導等をよろしく願っています。
 ・積極的にテーマを選択し研修される等、PTA活動での工夫がなされていると思います。

令和4年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

<p>学校経営方針 (スカラーミッション)</p>	<p>未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEMプログラムの推進 ○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力しあう豊かな人間性と、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校</p>			<p>評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。</p>	
<p>本年度の重点目標</p>	<p>資質・能力の育成 豊かな人間関係の醸成 命の教育の推進</p>	<p>STEMによるもの見方の習得や批判的思考力の育成」「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 「ART(感性・芸術・美意識)の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自走する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」「生命・人権尊重」「自己肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」</p>	<p>評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する</p>		
<p>学校の重点目標</p>	<p>各課の重点目標</p>	<p>評価指標(手段・ゴールイメージ)</p>	<p>具体的な対策</p>	<p>学年末 成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)</p>	<p>学校関係者評価及び意見</p>
<p>研究部SSH推進課</p>	<p>1 資質能力の育成</p>	<p>(1) ① SSH事業への連携が、部・課や学年に広がりを見せている。 (2) ① 批判的思考力などの資質・能力を育成できているか、ルーブリックを実際の評価に用いることができている。 (3) ① 探究活動の時間と質を保障する独自のカリキュラム編成ができています。また、高い水準の探究にも対応できる技術・設備を提供できる環境等がつくられています。 (4) ① MSECや学校視察の受入れ、学校ホームページ等を通じ、本校SSHの成果を発信し、普及を図っている。</p>	<p>(1) ① 組織横断的に編成されたSSH推進委員会を通じてSSHのプログラムを遂行するために部・課間の連携を深め、各学年会の理解と協力を得る。 (2) ① 批判的思考力などの資質・能力が身についたかルーブリックで評価し、その値から生徒変容をみるとともに、それら資質・能力育成の遅れに対する手立てを講じる。 (3) ① 探究について見直したカリキュラムを実践段階にうつし、探究の質を高める取組みを強化する。 (4) ① MSECや学校視察受入れ、HP等で自校の取組みを積極的に発信する。</p>	<p>4 (1) ① 各学年の「きみろんⅠ」「きみろんⅡ」の担当者が学年と連絡をとる頻度が増えた。 1年模擬探究(4テーマ)は新たな取組みだが、1年担任との連携で実行できた。 ○事業計画の大幅変更による過渡期で、進行に合わせ詳細がつけられている。 (2) ① ○ポスターセッションでの、先生方による客観的評価及び生徒自身の自己評価についてはルーブリック評価により評価ができ、両者を比較できるようになった。 ○「きみろんⅠ」の模擬探究では、観点別評価を含めた評価方法を作成している。 1学期期末考査に「きみろんⅠ」の筆記試験を導入した(知識・技能領域)。探究講座別課題設定では、全体を見通した教材や情報の提供が必要である。 ●資質能力育成の各過程についてルーブリック評価表を作る必要がある。 ルーブリック評価の内容について先生方・生徒に説明する機会が必要である。 (3) ① ○次年度以降の探究カリキュラムの枠組みがほぼ固まった。内容充実が今後の焦点。 ○3年ポスターセッションの参照アンケートで、質の向上が見られるとの意見があった。 ○附属中学校STEAMジュニアについて、早期から探究プロセスが実行されている。 (3) ① ○多くの先生方の御協力でHPで本校の取組みを発信できている。特に独自テキスト等を公開でき、成果普及が進んだ。 ○MSECポスター発表に3年生の探究15作品を発表できた。 ○タイKVISとの連携締結やISEF出場が新聞・市広報・メディアで広がりを見せている。 ○探究の指導方法を校内で普及する研修の時間を少しずつ設定できている。 ●研修の機会が少なく、SSH事業の研究開発について理解が不十分と思われる。</p>	<p>3.8 ・学校全体としての取組が広まり、それを魅力の1つとしてとらえる受験生(中学生)が増えている。自分の研究や考えをまとめ、発表する力は、大学入試においても重要だと思えます。 ・「きみろん」も朝陽祭のように、学校の大きな行事としてもっと地域に広めてほしい。 ・eポートフォリオという形できみろんの一人一人の研究を残すことはできないですか？ 冊子をずっと見てきましたが本当に面白い研究がたくさんあります。今の時代パソコンで誰にでも見てもらえ更にフィードバック得られます。そんなチャンスを作ってあげるともっと評価されるのではないかと思います。 ・ルーブリック評価を取り入れている点や生徒の探究に向けた支援など評価できる部分も多いが、全体的にSSHで生徒のどのような資質を伸ばしていきたいのか、そのためにどんな工夫を行っているのかあまり理解できない。</p>
<p>2 豊かな人間性の醸成</p>	<p>(1)「Art」(感性、文化・芸術、自然美、美意識)を重視し「STEM」と結びつけた体験活動を提供します。 (2)探究活動および相互評価活動を通じて、生徒間で協働的思考力を高める。 (3)MSECなどに参加して自らの探究成果を発信することを推奨するとともに、より創造的な高い目標に挑戦する心を養う。 (4)国際交流やサイエンスコミュニケーションを促進し、幅広い人間関係を構築させる。</p>	<p>(1) ① 附属中学校・高校のいずれでも「Art」を感じ取れる観察・実験・巡検など体験的な機会を増やしている。 (2) ① 探究活動および相互評価活動での他者との関係性の中で、自分の強みや将来性などを見いだす生徒が増えている。 (3) ① MSEC等の探究成果発表会、科学系オリンピック等の参加者が増えている。 (4) ① 探究成果発表会、国際交流やサイエンスコミュニケーション活動への参加がもつ意義と、それらが自身の将来をより一層充実させる契機となりえることを理解させる。</p>	<p>(1) ① 附属中学校、高等学校ともに観察・実験・巡検等の機会を増やす。 (2) ① 探究の方向性が似通ったゼミ・講座での探究活動や中間発表など、相互に情報交換ができる環境を構築する。 (3) ① 探究成果発表会や科学系オリンピック等への参加を積極的に呼びかけるとともに、主体的に取り組める環境を整える。 (4) ① 探究成果発表会、国際交流やサイエンスコミュニケーション活動への参加がもつ意義と、それらが自身の将来をより一層充実させる契機となりえることを理解させる。</p>	<p>3 (1) ① ○附属中学校で巡検などを計画し、実施できている。 一方、高校で巡検等の企画を考えるが日程がとりにくい。 (2) ① ○2学年のゼミ別探究は、担当者の努力と2学年、1学年の先生方の御協力で行われている。深く感謝を申し上げます。 ○1学年の講座別課題設定は先生方の御協力でも時間進行している。 (3) ① ○科学の甲子園ジュニアが全国2位、科学の甲子園予選で本校が12連覇。 (4) ① ●校外に自らの成果を発信する意欲が乏しいのは、探究成果に自信がもてないため、探究の達成感に乏しいためと分析している。探究の質を向上させる必要を痛感する。 ○附属中学生が宮崎市の科学技術館で、高校生が東京の科学技術館で自主的に展示発表を行ったことはサイエンスコミュニケーションの視点で評価できる。 ○タイのKVISとの国際交流がスタート、予算化も進めている。</p>	<p>3.0 ・きみろんがここまで進化してうれしいです。これからも先生方のご苦労がおりだと思えますが修正しながら進んで行かれています。 ・日常生活や日頃の学習の中で生じる「なぜ」という疑問を大切にしてください。</p>
<p>3 命の教育の推進</p>	<p>(1)自らの探究成果を持続可能な社会の実現に活用する視点をもたせる。</p>	<p>(1) ① 持続可能な社会の実現等に活用する視点が表出した探究成果が増加している。</p>	<p>(1) ① 個人的視点だけでなく社会的視点をもった探究が行われているかルーブリック評価に組み込み、評価項目として事前に生徒に示す。</p>	<p>3 (1) ① ○3年ポスターセッションの内容を見ると、社会的視点に立った探究が増えている。 個人的視点に立った探究が減る傾向ではある。授業等を通じて社会や人間、自然に目を向けさせ、課題発見力を培う必要がある。 ●時間的猶予を与えても、生徒の継続的な探究につながらない。 ●ルーブリック評価の項目を事前に生徒へ提示する必要がある。</p>	<p>2.5 ・特になし</p>

令和4年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

<p>学校経営方針 (スカラー・ミッション)</p>	<p>未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEMプログラムの推進 ○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力しあう豊かな人間性と、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校</p>			<p>評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等に元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。</p>	
<p>本年度の重点目標</p>	<p>資質・能力の育成 豊かな人間関係の醸成 命の教育の推進</p>	<p>STEMによるもの見方の習得や批判的思考力の育成」「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 「ART(感性・芸術・美意識)の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自走する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」 「生命・人権尊重」「自己肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」</p>	<p>評価段階 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する</p>		
<p>学校の重点目標</p>	<p>各課の重点目標</p>	<p>評価指標(手段・ゴールイメージ)</p>	<p>具体的な対策</p>	<p>学年末 成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)</p>	<p>学校関係者評価及び意見</p>
<p>評価</p>					<p>評価 コメント</p>
<p>研究部 図書情報課</p>	<p>1 資質能力の育成</p>	<p>(1) 学校教育の中核(メディアセンター)として、「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学び」の充実を支える学校図書館の機能強化を図る。 (2) ICT環境の整備を進めるとともに、生徒と教員のICT活用能力の向上を図る。</p>	<p>(1) ①「各教科の学び」と「探究的な学び」をつなぐ教科横断的な学校図書館の利活用を推進する。 (2) ①ICT環境の整備を整えるとともに、生徒と教員の有効活用を推進する。</p>	<p>(1) 学校図書館関係 ①○教科横断的な学校図書館の活用 各教科(13回)総合・探究(12回・個別カンファレンス)進路(16回)との連携、図書館活用(236時間)、端末(iPad)活用(400時間)、県立図書館マイライ(107冊)、市立図書館団体登録利用(67冊)、特設コーナーの設置(20回) 図書貸出平均冊数(中学21.7冊 高校4.7冊) ※昨年(中学15.3冊 高校3.6冊) ○未来授業研究会 「問いを立てる授業」のワークショップ(1回)、研究授業・ICTを活用した協議(1回) 「大学入試 評価問題分析」(1回)、 ●新教育課程を踏まえた授業評価作成(7月~2月) ○ICT環境整備 ipad 職員用60台、生徒用44台(一部を職員貸出)、Chromebook 40台 学習用デジタルコンテンツ「ジャパニカレッジschool」、蔵書検索「カーリル」 ○高校図書館部会事務局 学校司書委員会・九州大会実行委員設置(5月)、読書県みやざきシンポジウム(8月) ●STEAMLIBRARYの開設 (2)ICT関係(1人1台学習用端末) ①○生徒 普通科Chromebook242台、理数科Windows等端末123台 納品・購入完了(6月下旬) 生徒向けガイドライン作成、生徒向けガイダンス 普通科1回、理数科1回(7月) 次年度1年生学習用端末環境整備・保護者説明 ○職員 職員向け説明会 普通科1回・理数科1回(7月) ○保護者 保護者向け購入動画公開(3月~4月)、疑問窓口(4月)、Q&A・購入チラシ配布(4月) ②ICT環境整備及び他課との連携 ○各クラス配布用オンライン配信機器(三脚、Chrome cast、HDMI変換 33台)(6月) ○他課と連携したりリモート配信(42回)、組織体制(各校務分掌にICT配信担当を設置) ●1人1台学習用端末におけるICT活用状況調査 教師のICTスキル(A)、授業でのICT活用(B)、生徒のICT指導(B)、情報モラルの指導(B)</p>	<p>3.8 ・図書館の役割が今大きく変わろうとしている。様々な情報があふれる中で、それらの情報の信頼性なども考慮して、上手く活用できる資質を育成するための工夫を今後も続けていきたい。</p>
<p>2 豊かな人間性の醸成</p>	<p>(1) 生涯にわたって読書に親しむ態度の育成と情報モラルや社会参画の意識の向上を図る。</p>	<p>(1) ①図書委員会の主体的・自治的な読書活動の推進や校内における「心の居場所」の提供を図る。</p>		<p>(1) 生徒の主体的・自治的な読書活動 ①○外部との連携 県立図書館(創立120周年記念ラーニングコモンズ事業 6名参加)2日 探究活動をHPに掲載 高校教育課(ピリオドバトル大会生徒実行委員会 8名、図書委員企画校内予選会 2名参加) 生涯学習課(今村翔吾さんの座談会 30名参加)1日、葛屋書店(店頭購入)2日 50周年記念式典事業(STEAMライブラリー)2日、 外部業者やOBと図書館の在り方について協議 ○図書委員会 ブックレビュー作成、古本市開催(朝陽祭)、各種委員会の様子を学校HPで公開(10回)</p>	<p>3.0 ・外部との連携は、学部生はかなり忙しいので大学院生を中心につなげると良いのではないかと思います。ボランティアではなくきちんと報酬を出せる形で関わってもらう体制は作れないものでしょうか。大学との連携などを働きかけてもいいのではないかと思います。</p>
<p>事務部</p>	<p>1 資質能力の育成 2 豊かな人間性の醸成 3 命の教育の推進</p>	<p>(1) ①法令等に則り迅速かつ的確に処理する。 ②事務部の各担当者間で、職務を協力し合える体制を整える。 ③新型コロナウイルスや危機管理のため、外来者に対して、窓口での受付を徹底させる。 ④生徒が安心して学べるよう、施設設備の維持管理を適切に行う。</p>	<p>(1) ①法令等をこまめにチェックする。 ②職員間の連絡を密にする。 ③受付での検温、来校証の携帯を徹底する。 ④教職員・生徒会の協力を得て、四半期毎に危険箇所点検を行い、不良箇所を早期に修繕する。</p>	<p>(1) ①○各担当が規則・通知等を確認しながら、適正な事務処理に努めた。また、会計課研修や事務職員協会の研修等に積極的に参加し、知識を深めることができた。 ②○日頃より疑問等を話し、担当関係なく、全員で業務に取り組むことができた。今後さらに、来客・電話対応や、施設の整備・管理など、全員で業務を進めていきたい。 ○校納金徴収については、数名、納入が遅れる家庭があるが、担当者を中心に管理職も一緒に督促を行い、年度末には完納となる見込みである。 ④○今年度、9教室のエアコン新設・更新をすることができ、教育環境整備を進めることができた。 ●エアコン設置増、及び猛暑による電気使用量が増えていることに加え、10月より電気料金が大幅に上がり、予算に占める光熱費の割合が大きい。可能な範囲での節電、及び経費削減をお願いしたい。 ●修繕、物品購入等は、できる限り対応しているつもりではあるが、施設老朽化に伴う修繕箇所の増、及び予算の関係で、見送りとなっている部分もある。所管課への予算要求を行いながら、効果的な予算執行の手立てを探りたい。</p>	<p>3.0 ・特になし</p>

令和4年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

学校経営方針 (スクールミッション)	未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEAMプログラムの推進			評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。				
	本年度の重点目標	学校の重点目標	各学年の重点目標					
○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力しあう豊かな人間性と、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校	資質・能力の育成 豊かな人間関係の醸成 命の教育の推進	「STEMによるもの見方の習得や批判的思考力の育成」「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 「ART（感性・芸術・美意識）の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自定する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」 「生命・人権尊重」「自己肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」	評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する					
		学年末		学校関係者評価及び意見				
		成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)		評価	コメント			
高1学年	1 資質能力の育成	(1) 西高生としての基礎的な生活習慣の確立 (2) 基礎学力の定着、自ら探究する姿勢の確立 (3) 明確な進路目標の設定	(1) ①時間を守る。 ②気持ちのよい挨拶ができる。 ③ルール、マナーを守る。 ④精心に真剣に取り組む。 (2) ①「授業で勝負」の意識を高める。 ②学習習慣を確立する。 ③自らテーマを見つけ探究する。 (3) ①幅広い職業観を構築する。 ②進路目標に応じた適切な文理選択を行う。	(1) ①授業や課外、各集会等の時間を守り、ゆとりを持った行動を促す。 ②SHRや授業はもちろん、場面に応じた挨拶ができるように指導する。 ③学年団が一丸となって常時指導を行う。 ④生徒教師がいっしょに清掃に取り組み、心を耕す。 (2) ①授業の充実を図る。 ②生徒の学習状況を把握し、的確なアドバイスを行う。 ③各種テストに全力で取り組ませる。 ④「きみろん」の充実を図る。 (3) ①各種講演会・面談等の効果的な活用を図る。 ②進路に関する情報をタイミングよく提供する。	3	(1) ①●登校時の遅刻が多かった。来年度に向けての一番の課題である。粘り強く指導していきたい。 ②○明るく生き生きと学校生活を送ることができた。 ③○携帯・スマホを教室内で使用するなど、ルール、マナーが守れない生徒がいた。学年集会、学年合同終礼を行い改善がみられた。 ④○精心のよりくみ状況も良好であった。 (2) ①○授業に積極的に参加することができた。 ②●定期考査において欠点を取る生徒が多かった。対外模試においても向上はみられるもののまだまだ物足りないものがある。学習習慣について、質、量ともに不十分な生徒もいた。粘り強く指導していきたい。 ④○「きみろん」にも課題に対し、積極的に取り組む様子が見られた。後半のきみろんゼミでは、自ら課題を見つけ、探究報告書を作成することができた。 (3) ①○二者面談、三者面談を実施し、職業観、進路目標について考えることができた。 ②○進路実現のための文理選択を、担任を中心とした適切なサポートにより行うことができた。 ●進路講演会や面談を通して、新課程の理解や共通テストがこの学年から変わること意識させることができた。今後、さらに情報提供を行い、具体的な対策を行っていく必要がある。	3.0	
	2 豊かな人間性の醸成	(1) 思いやる力・想像力の育成 (2) 挑戦する心の育成 (3) 自己管理能力の育成 (4) 交通安全マナーの確立	(1) ①学校行事・生徒会活動等へ積極的に参加する。 ②ボランティア活動へ積極的に参加する。 (2) ①部活動等へ参加する。 ②各種検定・資格・コンクールへ挑戦する。 (3) ①パソコン・タブレット・スマホ・SNSを適切に使用する。 (4) ①交通安全マナーを意識して行動する。	(1) ①積極的に情報発信をする。 ②コーチングブック・STEAM Book・面談を活用する。 (2) ①部顧問と連携を図る。 ②文武両道を促進する。 (3) ①パソコン・タブレット・スマホ・SNSの適切な使い方を指導する。 ②コーチングブック・面談を活用する。 ③家庭と連携を図る。 (4) ①交通安全マナーの大切さを論じ、当事者意識を持たせる。	3	(1) ①②○朝陽祭、生徒会役員選挙への立候補、ボランティア活動など学校行事や生徒会活動などへ積極的に参加する生徒が多かった。 (2) ①②○部活動において、意欲的に活動する様子が見られた。素晴らしい成績を収めることができた。 (3) ①●一人一台端末が導入された。適切な使用、管理等課題が多かった。引き続きルール、マナーを指導していく必要がある。 (4) ①●自転車での登下校の際に事故に遭う生徒がいた。粘り強く指導していきたい。	3.0	・コロナ対策やICTの活用など新しく取り組みむべきことがたくさんあると思われるが、高校1年は、新しい高校生活が始まる大事な時期でもあるので、今後とも取組を続けていってほしい。
	3 命の教育の推進	(1) 命を大切に作る姿勢の育成 (2) 自己肯定感の育成	(1) ①LHR(人権教育・性教育など)を通して意識を高める。 ②感染症対策の徹底を図る。 ③学習環境の整備・充実を図る。 (2) ①安心・安全な学習環境を整える。 ②特性のある生徒へ配慮・支援を行う。	(1) ①HR内外での日常的な指導を行う。 ②学校(クラス・部活動等)・家庭との連携を図る。 (2) ①教室の整備・充実を図る。 ②コーチングブック・面談等の活用を図る。 ③通級指導との連携を図る。 ④教育相談体制・特別支援体制の充実を図る。 (アンケート・外部機関との協働等)	3	(1) ①○自己中心的な言動で周囲に迷惑をかける生徒がいたが、適切に指導することで改善を図ることができた。 ②○担任を中心に計画的に二者面談、三者面談を実施し、各家庭との連携を図ることができた。 ●コロナウイルス蔓延のため生徒、職員ともに休まなければならない状況があった。 ○学年団の先生方の協力で、「黙食」の実施など感染予防対策を行うことができた。 (2) ①○担任を中心とした常時指導により、教室の整備・充実を図ることができた。 ②○コーチングブック・面談などを活用して、きめ細かく生徒に対する指導を行うことができた。 ③○担任を中心に教育相談課、教科担任と協力しながら、来年度に向けての個別の支援計画作成に取り組んだ。 ④○定期的に行われる教育相談アンケートで、相談希望の生徒に適切に対応することができた。 ○悩みを抱える生徒に適切に対応することができた。	3.0	

令和4年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

<p>学校経営方針 (スクールミッション)</p>	<p>未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEAMプログラムの推進 ○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する 人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力しあう豊かな人間性と、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校</p>			<p>評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。</p>
<p>本年度の重点目標</p>	<p>資質・能力の育成 「STEMによるものの見方の習得や批判的思考力の育成」「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 豊かな人間関係の醸成 「ART（感性・芸術・美意識）の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自主する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」 命の教育の推進 「生命・人権尊重」「自己肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」</p>			<p>評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する</p>
<p>学校の重点目標</p>	<p>各学年の重点目標</p>	<p>評価指標(手段・ゴールイメージ)</p>	<p>具体的な対策</p>	<p>学年末 成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)</p> <p>学校関係者評価及び意見</p>
<p>評価</p>				<p>評価 コメント</p>
<p>1 資質能力の育成</p>	<p>(1)基礎的生活習慣の確立・強化 (2)基礎学力の向上 (3)高い進路目標の設定・自ら探究する姿勢の確立</p>	<p>(1) ①2分前行動の意識・実践 ②挨拶・服装容儀を整える意識・相互確認 ③規範意識の向上 ④細心を目標とした清掃への取組 (2) ①授業で勝負の意識 ②課題の意義の理解・真剣な取組 (3) ①幅広い職業観の構築 ②進路目標に応じた適切な進路選択</p>	<p>(1) ①授業や課外等の時間前行動を促す。 ②学級役員などリーダーを中心に動くような声かけをし、場面に応じた動きを意識させる。 ③学年団が一丸となって常時指導を行う。 (2) ①授業の充実を図る。 ②提出物の徹底を図る。 ③各種テストに全力で取り組ませる。 (3) ①各種講演会・面談等の効果的な活用を図る。 ②オープンキャンパスへの積極的な参加を図る。</p>	<p>3 (1) ①③●生徒主体～だけでは育たない部分もある。見守り・声かけを心がけた。 ②◎生徒主体の行事運営ができた。(陰に日向に、サポートをしていただきありがとうございます) ④◎細心(清掃)への取り組みも概ね良好。 (2) ①◎●授業の取り組みは、概ね良好。しかし、授業の先に入試があるという意識がまだ薄い者も。 ●一方エアコンの温度管理がうまくいかず、体調を崩す生徒もいるようだ。気をつけさせたい。 ②●提出物未提出者の固定化→締め切り前の指導を工夫したい。 ●課題の出し方や量の見直し→絶対量の確保→生徒の自走を促す。 ③●学力差、学習時間の差が大きくなっている。進路意識の向上+諦めさせない指導 ★受験は団体戦！共に支え合う意識で頑張りたい。 (3) ①◎2者・3者面談のおかげで、生徒・保護者との情報共有がある程度できている。 ○ClassiなどICTの活用で個別指導がやりやすかった。が、根気強い呼びかけが必要な生徒も。 ◎いろいろな講演会、学科・コース集会等の刺激により、前向きに取り組めるようになった生徒も多い。 ②◎オープンキャンパスや大学主催の講演会等に(オンライン、オフライン)参加して、進路意識が向上した。これからも情報の提供や、声かけをしていきたい。</p>
<p>高2学年 2 豊かな人間性の醸成</p>	<p>(1)思いやる力・想像力の育成 (2)挑戦する心の育成 (3)自己管理能力の育成 (4)交通安全マナーの確立・向上</p>	<p>(1) ①協働体験(学校行事・特別活動等への参加) ②ボランティア活動への参加 (2) ①部活動等への参加 ②各種検定・資格・コンクールへの挑戦 (3) ①スマホ・SNSの適切な使用 (4) ①交通マナーを意識した行動</p>	<p>(1)(2) ①積極的に情報発信をする。 ②コーチングブック・STEAM Book・面談を活用する。 ③文武両道を促進する。 ④部顧問と連携を図る。 (3) ①スマホ・SNSの適切な使い方を指導する。 ②コーチングブック・面談を活用する。 ③家庭と連携を図る。 (4) ①交通委員を中心として相互に声かけをさせ、SHR等を活用する。</p>	<p>3 (1)(2) ①◎各種通信やClassiの活用ができています。 ◎校外でも困っている人を助けるなど、他者への思いやりを持った行動ができる生徒が増えている。 ●掲示物が多過ぎて、教室(黒板等)が煩雑になりやすい。情報発信の工夫が必要か。 ②◎コーチングや学級日誌等を通して、一人ひとりに目をかけ声をかけており、人間関係は概ね良好である。小さなつづみや疑問も拾っているようだ。 ○ボランティアやコンテスト等の参加・資格への挑戦も積極的に上位入賞者も出ている。(英検I級合格もできました)様々な場面で学年を超えて、先生方や部顧問の先生方にご配慮や根気強いご指導をしていただき感謝している。 (3) ①◎自己管理がまだうまくできていない生徒がいるようだ。(特にスマホ・SNSや時間の管理)学習時間・睡眠時間とのバランスがとれず体調を壊す生徒も一部いる。「ツール」としての活用を身につけさせたい。 (4) ①◎交通マナーの悪さによる苦情や事故が絶えない。周りへの気遣い+雨天時や朝課外のない日の交通事情等を頭に入れて、早めに動くことを促したい。</p>
<p>3 命の教育の推進</p>	<p>(1)命を大切にす姿勢の育成 (2)自己肯定感の育成</p>	<p>(1) ①LHRの有効活用(人権教育・性教育など) ②感染症対策の徹底 ③学習環境の整備・充実 (2) ①安心・安全な学習環境 ②特性のある生徒への配慮・支援</p>	<p>(1)(2) ①LHR内外での日常的な指導を行う。 ②学校(クラス・部活動等)・家庭との連携を図る。 ③教育相談体制・特別支援体制の充実を図る。 (アンケート・外部機関との協働等) ④コーチングブック・面談等の活用を図る。 ⑤教室の整備・充実を図る。</p>	<p>3 (1)(2) ①●特設LHRだけでなく、学級独自のLHRで指導をしたいが、時間設定が少ない。 ①◎感染症予防対策を自分たちで図ることができるようになった。(マスク着用、黙食や換気など) しかし、一部気の緩みや集団生活する上での周りへの配慮ができない生徒もいるので、根気強く。当たり前のレベルの向上を目指させたい。 ②◎いろいろな事情の生徒に対し、担任団を始め、学校・部顧問・保護者が連携して情報を共有し、寄り添った指導に努めた。まだ、改善に時間のかかる生徒もいるが、根気強く指導をしていきたい。 ③◎OSCや相談部のサポートのお陰で、多面的に生徒を支援できてる。 ●特性のある生徒・様々な事情から自己肯定感を育む・持ち続けることが困難な生徒がいる。彼ら(彼女ら)への配慮・支援に関して、継続して外部機関とも連携し、気長に多面的に関わっていく必要がある。</p>

令和4年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

学校経営方針 (スクールミッション)	未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEAMプログラムの推進 ○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する 人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力しあう豊かな人間性と、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校			評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。		
	本年度の重点目標 資質・能力の育成 豊かな人間関係の醸成 命の教育の推進	「STEM」によるものの見方の習得や批判的思考力の育成 「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 「ART（感性・芸術・美意識）の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自定する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」 「生命・人権尊重」「自己肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」	評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する			
	学校の重点目標	各学年の重点目標	評価指標(手段・ゴールイメージ)	具体的な対策	学年末 成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)	学校関係者評価及び意見
					評価	評価 コメント
高3 学年	1 資質能力の育成	(1)「考えて動く」生徒の育成 (2)「予習－授業－復習」の確立 (3)進路実現	(1)(2)(3) ①自走できる西高生 ②自ら考えて行動できる西高生 ③対外模試での成績向上 ④欠点者の昨年度比減少	(1)(2)(3) ①基本的生活習慣の確立(「三点固定」) ②挨拶や服装容儀、時間厳守の徹底 ③文武両道(時間の使い方)の徹底 ④提出物の期限内提出の徹底 ⑤各種考査、模試などの充実・活用 ⑥学年集会を生徒が運営する	3 (1)(2)(3) ①生活習慣に問題がある生徒は一部だが、2学期と同じ指導に限界を感じる。学校での指導としては概ね達成することが出来た。 ②各委員会からの自発的なよびかけによって概ね達成することが出来た。教師主導での指導が難しくなっている中、生徒の意識を今後どのように高めていくかを考えていかなければならない。 ③2学期に同じ。 ④自分自身の受験を優先し、わがままな取り組みも見られた。受験だけではなく、教科の醍醐味などについても語りかけていきたい。 ⑤学年で共有し、計画的な指導をすることができた。 ⑥年間を通じて継続することが出来た。	3.0 ・やはり県No1の合格実績を上げている西高だと思います。学校の目指す教育、理念がしっかりとしたものになっています。 ・有能な先生方が多くいらっしゃいますので、意思統一を図って、西高の発展に向けて全員で取り組むチームになることを強く願っています。 ・期待通りの成果が得られてようです。ただ、一部ではあると思いますが、指導が難しい生徒に対してどのような対応ができるかを考える必要があると思います。 ・自転車マナーについては、今後も継続して指導・啓発をお願いします。
	2 豊かな人間性の醸成	(1)「いじめ」や「いじり」のない人間関係 (2)「自己肯定感」の向上 (3)「自己管理能力」の育成	(1)(2)(3) ①人間関係が原因による不登校の減少 ②卒業時調査による肯定感の向上	(1)(2)(3) ①学年集会や合同終礼の開催・充実 ②教室や廊下、トイレなどの環境整備 ③面談や「コーチングブック」などの有効活用 ④人権教育やHR活動の充実 ⑤スマホアクションプランの策定	3 (1)(2)(3) ①年間を通じて継続することが出来た。自己肯定感の向上が見られた。 ②耕耘時など、しっかりと取り組む姿勢が見られた。 ③担任の先生方を中心に、きめ細かい面談を実施していただいた。1学期に人間関係でのトラブルが見られたが、年間を通じて良好な人間関係を形成することができた。一方で集団に馴染めず、相談室登校や不登校になる生徒も若干みられた。 ④統一LHRでの取り組みを計画通り実施することが出来た。 ⑤●スマホの利用については具体的取り組みができて、学校での指導の難しさや限界を感じた。	3.0 ・期待通りの成果が得られてようです。ただ、一部ではあると思いますが、指導が難しい生徒に対してどのような対応ができるかを考える必要があると思います。 ・自転車マナーについては、今後も継続して指導・啓発をお願いします。
	3 命の教育の推進	(1)「他者を尊重」 (2)「個別支援」 (3)安全の徹底	(1)(2)(3) ①人間関係による転退学者の減少 ②交通事故や交通ルール・マナーに関する苦情の減少	(1)(2)(3) ①交通安全意識の高揚とルール・マナーの徹底 ②面談や「コーチングブック」などを利用した啓蒙活動 ③教育相談やスクールカウンセラー、外部専門機関との連携	3 (1)(2)(3) ①●交通マナーについては、根気強く呼びかけることしか出来ませんが、目立った向上はみられなかった。今後も地道に啓発していくのみである。 ③○不登校生徒については各機関との連携により、適切に対応することが出来た。転学する生徒も一部みられた。	2.6

令和4年度 宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

学校経営方針 (スクールミッション)		未来イノベーションを牽引する人材を育成する中高一貫したSTEAMプログラムの推進 ○ 中高一貫校として、「感性」(ART)と「理性」(STEM)が融合した主体的・対話的な深い学びを展開し、生徒一人ひとりに潜在する資質・能力を高め、将来の宮崎、日本、世界を牽引する 人材の育成を目指す学校 ○ 未知の我を求めて、生徒同士が共に切磋琢磨し協働する中で、探究的な活動を重視し、自ら問いを立てる力や、批判的思考力・協働的思考力・創造的思考力の育成を目指す学校 ○ 自己や他者の人権や価値観、多様性を尊重し、協力的あう豊かな人間性と、高い目標に挑戦し、試練を乗り越えるたくましい心身の育成を目指す学校		評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。			
本年度の重点目標		資質・能力の育成 豊かな人間関係の醸成 命の教育の推進		STEMによるものの見方の習得や批判的思考力の育成 「自主的に学びに向かう力を育成するカリキュラム・マネジメント」 「ART（感性・芸術・美意識）の重視」「多様性の尊重」「西高プライドの醸成」「自主する集団」「試練を乗り越える逞しい人間力」 「生命・人権尊重」「自己肯定感の育成」「危機対応能力の育成」「家庭・地域との連携」「郷土愛育成」「生涯を支える健康と活力の育成」		評価段階 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する	
学校の重点目標	各学年の重点目標	評価指標(手段・ゴールイメージ)	具体的な対策	学年末 成果及び改善策 (○実施済み、成果あり ●課題あり)		学校関係者評価及び意見	
				評価		評価	コメント
I 資質能力の育成	(1) 独立自尊の育成 (2) 基礎学力の定着 (3) あくなく探究心の育成	(1) ①「かくあたりたし、かくなりたし」を自問自答する西附生 ②生徒玄関前一礼、トイレのスリッパ並べ、整理整頓、無言耕心ができる西附生 (2) ①課題未提出0の西附生 ②わからないことをそのままにしない西附生 (3) ①「特色ある授業」はじめてする西附のオリジナル溢れる授業を楽しむ西附生 ②「探究」や「サイエンス」の授業を通して、STEAMジュニアや各種コンテストに積極的に挑戦する西附生	(1) ①キャリアパスポートや二重面談を活用し、生徒主体のプレゼンテーション型三者面談を実施する。 ②「先輩(西附内・理数科内進生・西校卒業生)の声を聞く会」を定期的に実施するとともに、職場体験学習を工夫し、生き方に関する学習を行う。 ③西附の基本ルールを意識した学校生活にするために、自治的な委員会活動や生徒集会の活性化を図る。 (2) ①「授業が命。授業で勝負。」を掲出し、教師、生徒ともに集中できる学習環境を整備する。 ②学担・教科担任・家庭との連携のもと、家庭学習の習慣化を図るとともに、誰ひとり残さない指導を徹底する。 ③SSを利用した質問タイムや補充学習を設定する。 ④支援訪問を活用し、西附の授業スタイルやICT活用の授業研究を行う。 (3) ①問いを発見したり、本物に触れたりする授業を展開する。 ②課題研究へのゴールイメージをもてるように、STEAMジュニア中間発表会やコンテストを実施する。 ③実験や協働作業を通して、科学的な見方や批判的思考力を育成するとともに、メタ認知を鍛える。	3	(1) ①行事や学年末にキャリアパスポートを活用し、自己の成長を振り返ることができた。今後、中高接続に向けてデータで保存していく必要がある。 ②○中2で立志志を実施した。事前学習を充実させ、自己の生き方を振り返る機会となった。 (2) ①●学担・教科担任・家庭との連携のもと、家庭学習の習慣化を図るとともに、誰ひとり取り残さない指導を徹底する。 ②●行事や会議などでSSの時間の確保が難しかった。 (3) ①△中3でSTEAMジュニア研究発表を在校生や保護者の前で実施することができた。今後、中高接続としてどのような形で継続していくのか検討が必要である。	3.0	・中学生を見ていると、非常に明るくて活気がある生徒が増えていると感じます。ただ、人間性の育成については、個々の差が生まれやすい環境でもあると思われる。 ・学力以外の部分でも県内で1番の集団となうように、様々な行事・授業を通じて成長できたら素晴らしいと思います。 ・AIが論文やアートを書いてしまう時代において、人間が自分の体験に基づいてどう言葉を紡ぎ表現するのか。そのことがますます必要になってくる気がします。ただの理路整然としたものでなく、そこに人間の感性がみえるものが際立って価値を生む、そうあってほしいです。西附はそういう意味でも特色ある授業を貫いて行けばよいと思います。 ・全ての生徒にとって学校が楽しく生き生きと生活できる場所となるよう今後も努力を続けていってほしい。
	(1) 西校プライドと自治の醸成 (2) 西附の特色ある授業の推進	(1) ①自分自身に自信をもち、協働を通して、誰に対しても共感的な気持ちで接することができる西附生 ②よりよい西附を創るため、自らの判断に基づき、率先してリーダーシップを発揮できる西附生 (2) ①「感性」や「プレゼンテーション」の授業を通して、日本や外国の文化に触れるとともに、よりよい社会に貢献するために積極的に自分の意見を発表できる西附生	(1) ①民主主義の場を経験できるように、議論を取り入れた生徒総会を実施し、校則改正やよりよい学校生活へ向けた話合いの場を設ける。 ②宿泊研修や農家民泊、修学旅行、種子島・屋久島研修などでのグループ活動を通して、他者との共感的人間関係を築き、自己肯定感・存在感を高める場を設定する。 ③委員会活動の活性化を図り、生徒集会で発表する機会を設ける。 (2) ①自己に内在する感受性に気づき、その思いを他者に伝えるために、詩歌の創作活動を行う。 ②論理的思考力を高め、他校生との交流を通して、視野を広げるために、パブリック・ディベートや英語ディベートを設定する。	3	(1) ①○公約の途中経過を報告する生徒集会を実施した。今後はGoogleClassroomでのアンケート回答率100%を目標にしたい。 ②○中3最後の校外学習を生徒主体で創り上げ、互いのよさを認め合うことができた。 ③○共通テスト見送り、百人一首大会、卒業生を送る会など委員会を中心とした活動を行う事ができた。 (2) ①○たくさんの作品展で作文や短歌が入選できた。 ②○九州パブリックディベート・コンテストで中3年6名で編成したチームが優勝した。高校生徒の高め合いながら、論証技術を磨くことができた。3月末には、校内予選を勝ち抜いた代表4名が英語ディベートコンテストに出場予定である。	3.0	
	(1) 生命・人権の尊重 (2) 自己肯定感の育成	(1) ①地域に愛され、交通マナーを守った登下校ができる西附生 ②命と真剣に向き合う西附生 (2) ①思いやりに溢れ、多様性を認める西附生	(1) ①大塚地区「愛の一声運動」標語・作文コンクールに参加する。 ②人権週間や防災週間を設け、命や防災に関する道徳の授業を行う。 ③避難訓練や外部講師による講話を実施する。 (2) ①人権週間における生徒主体の集会を設定する。 ②特性のある生徒への支援を行い、SCの積極的な活用を行う。	3	(1) ①○人権週間に大塚地区「愛の一声運動」作文コンクール優秀作品を昼食時間に放送で流した。 ②○外部講師を招いて、性教育やデートDV等に関する講話を実施した。 (2) ①○交通マナーとSNSに使用について、生活委員会主催の集会を行った。 ②△SCを積極的活用したが、特性のある子をもつ保護者の悩みを解消することが困難であった。	3.0	